



Cisco Prime Infrastructure 3.0 クイック スタート ガイド

- 1** [概要\(2 ページ\)](#)
- 2** [インストールを開始する前に\(3 ページ\)](#)
- 3** [Cisco Prime Infrastructure のインストール\(9 ページ\)](#)
- 4** [インストール後の作業\(13 ページ\)](#)
- 5** [参考資料\(15 ページ\)](#)

改訂日:2016年3月2日

SUPPLEMENTAL LICENSE AGREEMENT FOR CISCO SYSTEMS NETWORK MANAGEMENT SOFTWARE: CISCO PRIME INFRASTRUCTURE

IMPORTANT-READ CAREFULLY: This Supplemental License Agreement (“SLA”) contains additional limitations on the license to the Software provided to Customer under the End User License Agreement between Customer and Cisco. Capitalized terms used in this SLA and not otherwise defined herein shall have the meanings assigned to them in the End User License Agreement. To the extent that there is a conflict among any of these terms and conditions applicable to the Software, the terms and conditions in this SLA shall take precedence.

By installing, downloading, accessing or otherwise using the Software, Customer agrees to be bound by the terms of this SLA. If Customer does not agree to the terms of this SLA, Customer may not install, download or otherwise use the Software.

ADDITIONAL LICENSE RESTRICTIONS:

- Installation and Use. The Software components are provided to Customer solely to install, update, supplement, or replace existing functionality of the applicable Network Management Software product. Customer may install and use the following Software components:
 - Cisco Prime Infrastructure: May be installed on a server in Customer's network management environment.

For each Software license granted, customers may install and run the Software on a single server to manage the number of network devices and codecs specified in the license file provided with the Software, or as specified in the Software License Claim Certificate. Customers whose requirements exceed the network device and codec limits must purchase upgrade licenses or additional copies of the Software. The network device and codec limits are enforced by license registration.

- Reproduction and Distribution. Customers may not reproduce nor distribute the Software.

DESCRIPTION OF OTHER RIGHTS AND LIMITATIONS.

Refer to the Cisco Systems, Inc. End User License Agreement.

1 概要

ここでは、製品とこのマニュアルに関する基本情報を提供します。

関連項目

- [このマニュアルについて](#)
- [製品の概要](#)
- [主な機能](#)
- [Cisco Prime Infrastructure のライセンスについて](#)

このマニュアルについて

このマニュアルでは、Cisco Prime Infrastructure 3.0 のインストール方法について説明します。

この製品の設定と管理の詳細については、『[Cisco Prime Infrastructure 3.0 管理者ガイド](#)』と『[Cisco Prime Infrastructure 3.0 ユーザガイド](#)』を参照してください。

このマニュアルでは、お客様が用意したハードウェアに OVA として Prime Infrastructure をインストールする方法について説明します。Prime Infrastructure は、ハードウェア アプライアンスとして使用することもできます。アプライアンスのインストール方法については、『[Cisco Prime Infrastructure 3.0 Appliance Hardware Installation Guide \(Cisco Prime Infrastructure 3.0 アプライアンス ハードウェア インストールガイド\)](#)』を参照してください。

製品の概要

Prime Infrastructure では、有線/ワイヤレス アクセス、キャンパス、およびブランチ ネットワークの包括的なライフサイクル管理のための単一の統合ソリューションを提供し、エンド ユーザの接続性とアプリケーションのパフォーマンスの保証の問題で豊富な可視性を提供します。Prime Infrastructure は、企業 IT への「個人所有デバイスの持ち込み」(BYOD)を実現し、新しいサービスのロールアウト、モバイル デバイスのセキュアなアクセスと管理を加速します。アプリケーション パフォーマンスの可視性およびネットワーク制御とクライアントの認識とを緊密に結びつけることで、Prime Infrastructure は、エンドユーザに妥協のない品質のエクスペリエンスを保証します。Cisco Identity Services Engine (ISE) との緊密な統合によって、セキュリティおよびポリシー関連の問題に関する視覚化が拡張され、これらを解決するための明確な手順を含むクライアントのアクセス問題の全体像が示されます。

主な機能

参照先:

- Prime Infrastructure の機能と利点の概要については、最新の [Cisco Prime Infrastructure データ シート](#) を参照してください。
- 頻繁に使用する Prime Infrastructure の機能については、『[Cisco Prime Infrastructure 3.0 ユーザ ガイド](#)』を参照してください。
- 管理者向けの機能の詳細については、『[Cisco Prime Infrastructure 3.0 管理者ガイド](#)』を参照してください。

Cisco Prime Infrastructure のライセンスについて

Prime Infrastructure のライセンスによって、使用できる機能およびそれらの機能を使用して管理できるデバイスの数が決まります。その他の参考資料は次のとおりです。

- Cisco Prime Infrastructure のライセンスの種類と注文方法については、『[Cisco Prime Infrastructure 3.0 Ordering and Licensing Guide](#)』を参照してください。
- 購入済みのライセンスを適用する方法については、『[Cisco Prime Infrastructure 3.0 ユーザ ガイド](#)』を参照してください。

2 インストールを開始する前に

Prime Infrastructure をインストールする前に、次の項の作業を終了してください。

関連項目

- [システム要件について](#)
- [Prime Infrastructure の拡張](#)
- [前のリリースの Prime Infrastructure からアップグレードする場合](#)

システム要件について

Prime Infrastructure の提供形態は、次の 2 つに大別されます。

- **仮想:** Prime Infrastructure 仮想アプライアンスは、Open Virtualization Archive (OVA) ファイルとしてパッケージ化されています。このファイルは、ユーザ側で用意する、VMware ESXi を実行中の適格なサーバにインストールする必要があります。この形態の場合、任意のサーバハードウェア上でアプライアンスを実行できます。また、企業ネットワークのサイズに応じてそれぞれに最適化された 4 つのいずれかの設定で仮想アプライアンスをインストールできます。仮想アプライアンスの各サイズ オプションに対応するハードウェア要件および容量については、「[仮想アプライアンスのオプション](#)」を参照してください。
- **物理:** 物理アプライアンスは、ラック取り付け型サーバとしてパッケージ化されており、Prime Infrastructure があらかじめインストールされて設定されています。物理アプライアンスのハードウェア仕様および容量については、「[物理アプライアンス オプション](#)」を参照してください。

仮想アプライアンスのオプション

インストール時に、4つの導入設定オプションの中から1つを選択できます。表1 各オプションの最小サーバ要件について説明します。

表1 Prime Infrastructure のサーバの最小要件

要件	Express	Express-Plus	Standard	Professional
VMware バージョン	ESXi 5.1 または 5.5	ESXi 5.1 または 5.5	ESXi 5.1 または 5.5	ESXi 5.1 または 5.5
仮想 CPU ¹	4	8	16	16
メモリ (DRAM)	12 GB	16 GB	16 GB	24 GB
HDD サイズ	300 GB	600 GB	900 GB	1.2 TB
スループット (ディスク IOPS)	200 MB/s	200 MB/s	200 MB/s	320 MB/s

1. 任意の組み合わせでソケットとコアを設定できますが、必要な仮想 CPU の数に合わせる必要があります。たとえば、16 個の仮想 CPU が必要な場合は、4つのソケットと4つのコアや2つのソケットと8つのコアのように設定できます。

任意の Prime Infrastructure オプションを、ご使用のハードウェアの VMWare ESXi 下で動作する Open Virtualization Archive (OVA) としてインストールすることができます。この実装を選択した場合、使用するサーバは、表に示す選択したオプションの要件を満たすか上回っている必要があります。

Prime Infrastructure は、シスコから提供されるハードウェアに物理アプライアンスとしてインストールされた状態で購入することもできます。詳細については、『Cisco Prime Infrastructure 3.0 Appliance Hardware Installation Guide』を参照してください。各インストール オプションの最大管理容量については、「Prime Infrastructure の拡張」を参照してください。

物理アプライアンス オプション

Prime Infrastructure は、Cisco Unified Computing System (UCS) アプライアンスで使用できます。Prime Infrastructure 3.0 は、Cisco Prime Infrastructure 物理アプライアンス (Gen 1) ではサポートされません。Prime Infrastructure 3.0 は、Cisco Prime Infrastructure 物理アプライアンス (Gen 2、UCS ベース) でサポートされます。Prime Infrastructure 2.2.x ~ Prime Infrastructure 3.0 を実行している Prime Infrastructure 物理アプライアンス (Gen 2、UCS ベース) アプライアンスをアップグレードできます。表2 物理アプライアンス オプションについて説明します。

表2 Prime Infrastructure 物理アプライアンス (Gen 2、UCS ベース) の Prime Infrastructure 物理アプライアンス オプション

物理アプライアンス オプション	アプライアンス イメージ形式	ベア メタル/ISO
	1.x オプションと同等	物理アプライアンス
ハードウェア仕様	CPU (コア数/スレッド数)	10 C/20 T
	メモリ	64 GB
	ディスク容量	4x900 GB
	RAID レベル	RAID 10
	ディスク I/O 速度	320 MBps
デバイス	統合 AP の最大数	20,000
	自律 AP の最大数	3000
	最大 WLAN コントローラ数	1000
	有線接続の最大数 (スイッチ、ルータ)	13,000
	MSE の最大数	25
	NAM	1000
最大デバイス数	24,000	

表2 Prime Infrastructure 物理アプライアンス (Gen 2, UCS ベース) の Prime Infrastructure 物理アプライアンス オプション (続き)

クライアント	有線クライアント数	50,000
	ワイヤレス クライアント数	200,000
	変更クライアント (5 分間隔)	40,000
モニタリング	イベント維持率 (イベント数/秒)	1000
	Netflow (フロー数/秒)	80,000
	インターフェイスの最大数	350,000
	最大有効 NAM データ ポーリング数	40
システム	最大サイト数/キャンパス数	2500
	最大グループ数 ¹	150
	最大仮想ドメイン数	1200
システム ユーザ	同時使用 GUI クライアント	50
	同時使用 API クライアント	5

1. 「最大グループ数」は、すべてのユーザ定義グループ、設定済みグループ、デバイス グループ、およびポート グループの合計数です。

Gen2 アプライアンスのパフォーマンスの向上

Prime Infrastructure アプライアンス (Gen 2, UCS ベース) のパフォーマンスを向上させるには、仮想ドライブ Write Policy が Write Back Good BBU に設定されていることを確認します。仮想ドライブの書き込みポリシーを設定するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** CIMC Web インターフェイスを起動します (『[Cisco Prime Infrastructure Appliance Hardware Installation Guide](#)』の「[Setting Up the Appliance](#)」を参照)。
- ステップ 2** [ストレージ (Storage)] タブをクリックして、SAS モジュラ コントローラ名をクリックし、[仮想ドライブ (Virtual Drive)] タブをクリックして、[仮想ドライブの編集 (Edit Virtual Drive)] をクリックします。
- ステップ 3** 表示されたダイアログボックスで [OK] をクリックします。
- ステップ 4** [書き込みポリシー (Write Policy)] フィールドで、[Write Back Good BBU] を選択してから、[変更の保存 (Save Changes)] をクリックします。
-

Web クライアントの要件

Prime Infrastructure ユーザは Web ブラウザ クライアントを使用して、製品にアクセスします。Web クライアントの要件は次のとおりです。

- ハードウェア: 次のテスト済みサポート ブラウザのいずれかに対応している Mac または Windows のラップトップまたはデスクトップ。
 - Google Chrome 40 以降
 - Microsoft Internet Explorer 10、または 11 (プラグイン不要)
 - Mozilla Firefox ESR 31、38
 - Mozilla Firefox 35 以降
- 画面の解像度: Prime Infrastructure は 1366 x 768 以上をサポートしますが、1600 x 900 に設定することをお勧めします。

Google Chrome バージョン 44 を使用している場合は、"ERR_INSECURE_RESPONSE" というエラーが表示されることがあります。これは、Chrome の既知の問題で、次の URL で確認できます。

<https://groups.google.com/a/chromium.org/forum/#!topic/chromium-discuss/4ctMmhOTDFg>

Google は、Chrome バージョン 45 でこの問題を解決する予定です。現状については、次の URL を参照してください。

<https://code.google.com/p/chromium/issues/detail?id=473390>

この問題を回避するには、署名付き証明書(推奨)を使用するか、Chrome をバージョン 43 にダウングレードします。署名付き証明書の作成方法については、『Cisco Prime Infrastructure 3.0 管理者ガイド』の「Obtaining and Importing CA-Signed Certificates」を参照してください。

Prime Infrastructure の拡張

Prime Infrastructure にはさまざまなサーバ インストール オプションがあります(「システム要件について」を参照)。ネットワークの規模や複雑さに合ったオプションが選択されていることを確認します。

表 3 各オプションのデバイス、クライアント、イベント、Netflow データ フローの最大数、およびその他のスケール パラメータを示します。たとえば、Professional オプションは、200,000 台のワイヤレス クライアントと 50,000 台の有線クライアントを管理できます。

表 3 Prime Infrastructure のインストール オプションの対応スケール(Assurance を含む)

パラメータ(最大数)	Express	Express-Plus	Standard	Professional	Hardware Appliance (Gen 2) ¹
デバイスの最大数(有線およびワイヤレス デバイスの組み合わせ)	500	3000	10,000	14,000	24,000
ユニファイド AP	300	2500	5000	10,000	20,000
自律 AP	300	500	1500	2500	3,000
有線デバイス	300	1000	6000	10,000	13,000
NAM	5	5	500	800	1000
コントローラ	5	25	500	800	1,000
有線クライアント	6000	50,000	50,000	50,000	50,000
ワイヤレス クライアント	4000	30,000	75,000	150,000	200,000
Cisco Mobility Services Engine (MSE)	1	1	6	10	12
変更クライアント(5 分間隔) ²	1000	5000	25,000	30,000	40,000
イベント維持率(イベント数/秒。syslog、トラップ、システム イベントを含む)	100	100	300	500	1000
Syslog レート	70	70	210	350	600
トラップ レート	20	20	60	100	300
システム イベント レート	10	10	30	50	100
NetFlow レート(フロー数/秒) ³	3000	3000	16,000	40,000	80,000
サポートされる時間単位ホスト レコード	144,000	720,000	2,100,000	6,000,000	12,000,000
インターフェイス	12,000	50,000	250,000	250,000	350,000
有効 NAM データ ポーリング	5	5	20	30	40
ポーリング インターフェイス(トランク ポートのポーリング)	2400	8000	48,000	100,000	100,000
キャンパスごとのサイト数	200	500	2500	2500	2500
グループ:ユーザ定義 + アウト オブ ザ ボックス + デバイス グループ + ポート グループ	50	100	150	150	150
仮想ドメイン	100	500	750	750	750
同時使用 GUI クライアント	5	10	25	50	50

表3 Prime Infrastructure のインストール オプションの対応スケール(Assurance を含む)(続き)

パラメータ(最大数)	Express	Express-Plus	Standard	Professional	Hardware Appliance (Gen 2) ¹
同時使用 API (またはノースバウンド インターフェイス) クライアント	2	2	5	5	5
ローカル ユーザ	100	500	1000	500	1000
ロケーション グループ	50	50	1000	500	1000

1. コンプライアンスは、Professional 仮想アプライアンス(OVA)と Gen 2、UCS ベースの物理アプライアンスでのみサポートされます。Express、Express Plus、Standard OVA、Professional にサイズ変更された OVA、Gen 1 物理アプライアンスではサポートされません。サポートされていない OVA または物理アプライアンス上で Prime Infrastructure を実行して、コンプライアンスをイネーブルにする場合は、3.0 Professional OVA または Gen2 UCS アプライアンスのフレッシュ インストールを実行してから、バックアップ/復元を使用して古いサーバから新しいサーバにデータを移行する必要があります。『Cisco Prime Infrastructure 3.0 管理者ガイド』の「Enabling Compliance Services」を参照してください。
2. 変更クライアントとは、AP をまたいでローミングしているワイヤレス ユーザまたは AP に対するアソシエートとアソシエート解除を繰り返しているワイヤレス ユーザのことです。
3. NetFlow レートは、フロー内の一意のクライアントの数によって異なります。サポートされる NetFlow レートは、1 日あたりの時間単位ホストレコード (またはサーバクライアントとアプリケーションの一意の組み合わせ) の変換後の数にも基づきます。

オペレーション センターのスケーリング

オペレーション センターを使用している場合の推奨事項を以下に示します。

- Standard OVA インストール オプションを使用します。
- ネットワークがオペレーション センターと管理対象デバイス間で次のパフォーマンス レベルを提供していることを確認します。
 - 帯域幅: 250 Kbps
 - 遅延: 5 ミリ秒以下。これは厳密な要件ではありませんが、オペレーション センターは最も低速な管理対象インスタンスと同じ速度にしかなりません。遅延が大きいほど、全体的なパフォーマンスは遅くなります。ボトルネックとなっている可能性がある管理対象インスタンスを特定するには、オペレーション センターの [サーバの管理とモニタリング (Manage & Monitor Servers)] ページの [ネットワーク遅延(Network Latency)] 列を使用します。
- オペレーション センターによって管理されるすべてのインスタンスが Prime Infrastructure 3.0 を実行していることを確認します。

表4 オペレーション センター パラメータを示します。

表4 オペレーション センターのスケーリング

オペレーション センター パラメータ	最大サポート数
管理対象インスタンスの数	10
管理対象仮想ドメインの数	100
同時使用 GUI クライアント	100

物理アプライアンス オプションについては表 2 を、インストール オプションのスケーリングに関する情報については表 3 を参照してください。詳細については、『Cisco Prime Infrastructure 3.0 管理者ガイド』の「Setting Up Operations Center」を参照してください。

データセンターのスケーリング

表 5 データセンター パラメータを示します。

表 5 データセンターのスケーリング

パラメータ		Standard	Professional	Hardware Appliance (Gen 2)
ワイヤレス ネットワーキング	ワイヤレス LAN コントローラ (WLC)	100	200	400
データセンター ネットワーキング	有線デバイス (Cisco Catalyst 3000 シリーズ デバイス、Cisco Nexus 5000 シリーズ デバイス、Cisco Nexus 7000 シリーズ デバイス、Cisco Integrated Services Router (ISR)、および Cisco ASR デバイス)	1000	1500	3000
仮想インフラストラクチャ	Cisco UCS B シリーズ デバイス、Cisco UCS C シリーズ デバイス	500	1000	2000
	VMware vCenter	5	10	18
	VMware ホスト	250	500	1200
	VMware クラスタ	4	8	15
	仮想マシン	2500	6000	12,000
	合計	4395	9218	18,629

前のリリースの Prime Infrastructure からアップグレードする場合

次の Prime Infrastructure バージョンを Prime Infrastructure 3.0 にアップグレードできます。

- Cisco Prime Infrastructure 2.2.3
- Cisco Prime Infrastructure 2.2.2
- Cisco Prime Infrastructure 2.2.1 のデータセンター テクノロジー パッケージ 1.0.0
- Cisco Prime Infrastructure 2.2.1 のワイヤレス テクノロジー パッケージ 1.0.0
- Cisco Prime Infrastructure 2.2.1
- Cisco Prime Infrastructure 2.2

製品およびバージョンがこのリストにない場合に、3.0 にアップグレードするには、先にバージョン 2.2.x 以上にアップグレードする必要があります。

バージョン 2.2.x を FIPS モードでインストールした場合は、Prime Infrastructure 3.0 にアップグレードできません。

Cisco.com からダウンロードした Prime Infrastructure のインストール ファイルとアップグレード ファイルはすべてアーカイブ ファイルです。これらのファイルは、インストールまたはアップグレードに使用する前に解凍してください。

複数のバージョンの Prime Infrastructure を実行していて、それらの Prime Infrastructure からデータを移行する必要がある場合は、「[複数の Prime Infrastructure バージョンを実行している場合](#)」を参照してください。

新しい Prime Infrastructure サーバにバックアップを復元するには、その Prime Infrastructure サーバが前のサーバ以上のサイズでなければならないことに注意してください。「[Prime Infrastructure の拡張](#)」を参照してください。

Prime オペレーション センター 2.2.x から 3.0 にアップグレードする前に、Prime オペレーション センターで管理されるすべての Prime Infrastructure インスタンスが Prime Infrastructure 2.2.X から Prime Infrastructure 3.0 にアップグレードされていることを確認します。

以前のサポート対象バージョンの Prime Infrastructure からデータをバックアップするには、次の手順に従ってください。

ステップ 1 現在実行している Prime Infrastructure バージョンのリモート バックアップ リポジトリをまだセットアップしていない場合は、セットアップします。詳細については、『[Cisco Prime Infrastructure 3.0 管理者ガイド](#)』の「[Using Remote Backup Repositories](#)」を参照してください。

ステップ 2 現在実行している Prime Infrastructure バージョンのアプリケーションのバックアップを取り、リモート リポジトリにバックアップを保存します。詳細については、『[Cisco Prime Infrastructure 3.0 管理者ガイド](#)』の「[Taking Application Backups](#)」を参照してください。

ステップ 3 「[バックアップの検証](#)」の説明に従って、バックアップの整合性を確認します。

複数の Prime Infrastructure バージョンを実行している場合

以前のリリースの Prime Infrastructure を複数実行している (たとえば、バージョン 2.2 と 2.2.1 または 2.2.2) 場合は、データを復元するために使用するバージョンを 1 つ選択する必要があります。複数のバージョンの Prime Infrastructure からデータを復元することはできません。複数のバージョンの Prime Infrastructure からデータを統合するには、以下を行います。

1. 以前の Prime Infrastructure バージョンを実行している 1 つの Prime Infrastructure システムに対して復元操作を実行します。「[前のリリースの Prime Infrastructure からのデータの移行](#)」を参照してください。
2. 他の Prime Infrastructure システムからデバイス インベントリおよびマップをエクスポートし、その情報を Prime Infrastructure 3.0 システムにインポートします。

バックアップの検証

追加の Prime Infrastructure サーバ(予備の Prime Infrastructure アプライアンスまたは新しい Prime Infrastructure 仮想マシン)をセットアップして、Prime Infrastructure バックアップ データの有効性を確認してから、『[Cisco Prime Infrastructure 3.0 管理者ガイド](#)』の「[Restoring From Application Backups](#)」の説明に従って復元操作を行ってください。バックアップを検証するための追加 Prime Infrastructure システムがない場合は、少なくとも 2 つのバックアップをとって、データ損失のリスクを軽減します。

復元操作が機能しない場合、またはバックアップされたイメージに問題がある場合は、実動システムから別のバックアップを取るか、以前の Prime Infrastructure のバックアップからの復元を試みます。

このバージョンの Prime Infrastructure をインストールする前に検証済みのバックアップを作成できない場合は、Cisco TAC でサポート ケースをオープンします。

3 Cisco Prime Infrastructure のインストール

Prime Infrastructure をインストールするには、この項の手順に従ってください。

- [インストール開始前の作業](#)
- [インライン アップグレードの実行](#)
- [VMware vSphere Client からの OVA の導入](#)
- [サーバのインストール](#)

インストール開始前の作業

仮想マシンに Prime Infrastructure をインストールする前に、次の手順を実行します。

- Prime Infrastructure サーバとして使用する予定のマシン上に VMware ESXi がインストールされ、設定されていることを確認します。VMware ホストのセットアップと設定については、[VMware のマニュアル](#)を参照してください。VMware ESX 5.5 を使用する場合、vSphere Client または ESX5.5U2 Client を使用して仮想マシンを管理する必要があります。仮想マシンの設定を編集しないでください。また、設定の拡張または手動によるディスクの追加も行ってはなりません。
- インストールされている VMware ESXi ホストが到達可能なことを確認します。VMware vSphere Client をインストールする方法については、[VMware のマニュアル](#)を参照してください。ネットワークで仮想ホストが使用可能になった後、その IP アドレスを参照して、VMware vSphere Client をインストールできる Web ベースのインターフェイスを表示できます。
- Prime Infrastructure OVA が、VMware vSphere Client のインストール先と同じマシンに保存されていることを確認します。シスコとの取り決めに従って、OVA ファイルを Cisco.com からダウンロードするか、シスコが提供するインストールメディアを使用します。

- OVA をダウンロードした場合、Cisco.com からダウンロードした PI-VA- 3.0.0.0 .78.ova.zip アーカイブ ファイルに含まれる PI-VA- 3.0.0.0 .78.ova ファイルを解凍します。その後で、解凍したファイルが次のチェックサムと一致することを確認します。
 - MD5 チェックサム: eb20a7542d48d97740a4ad412c82f0cf
 - SHA512 チェックサム:
54850a0a35009fad54b707624605cd3715ffe0ea66fc446db4053c399d563c4374fcf8a0122ff4d447e072f27764fc0523f6b140a995d33daacf706a9c3f2134



(注) Prime Infrastructure 3.0 は、FIPS モードのインストールをサポートしません。FIPS モードのバックアップ Prime Infrastructure 2.2.x から Prime Infrastructure 3.0 へのインライン アップグレードまたは復元を実行することはできません。

インライン アップグレードの実行

インライン アップグレードはシステムの移行より簡単で、新しいハードウェアも必要ではありません。以下の手順では、Prime Infrastructure 2.2.x から Prime Infrastructure 3.0 にアップグレードする方法について説明します。



(注) Prime Infrastructure 2.2.x 仮想マシンからアップグレードする場合は、以前使用したものと同一導入設定オプション (Express、Express-Plus、Standard、Professional など) を使用して新しい仮想マシンを作成し、既存の仮想マシンをバックアップしてから、それを新しい仮想マシンに復元する必要があります。Prime Infrastructure 2.2.x からのインライン アップグレードを実行し、アップグレードした仮想マシンが完全に動作可能になってから古い仮想マシンを削除します。

- ステップ 1** 現在実行している Prime Infrastructure バージョンのリモート バックアップ リポジトリをまだセットアップしていない場合は、セットアップします。詳細については、『[Cisco Prime Infrastructure 3.0 管理者ガイド](#)』の「[Using Remote Backup Repositories](#)」を参照してください。
- ステップ 2** 現在実行している Prime Infrastructure バージョンのアプリケーションのバックアップを取り、リモート リポジトリにバックアップを保存します。詳細については、『[Cisco Prime Infrastructure 3.0 管理者ガイド](#)』の「[Taking Application Backups](#)」を参照してください。
- ステップ 3** 「[バックアップの検証](#)」の説明に従って、バックアップの整合性を確認します。
- ステップ 4** プライマリおよびセカンダリ Prime Infrastructure サーバから、既存のハイ アベイラビリティ設定を削除します。これは、次の選択肢のいずれかを使用して実行できます。
 - Prime Infrastructure を起動して、[管理 (Administration)] > [ハイアベイラビリティ (High Availability)] > [HA 設定 (HA Configuration)] の順に選択し、[削除 (Remove)] をクリックします。
 - 管理コンソールに移動して、`ncs ha remove` コマンドを実行します。
- ステップ 5** Cisco.com から PI-Upgrade-3.0.0.0.78.tar.gz.zip アーカイブ ファイルをダウンロードし、Cisco.com 上に用意されているそのチェックサムを使用してアーカイブの整合性を確認します。
- ステップ 6** ダウンロードした ZIP アーカイブからアップグレード ファイル PI-Upgrade-3.0.0.0.78.tar.gz を解凍して、解凍したファイルが次のチェックサムと一致することを確認します。
 - MD5 チェックサム: 03446c34f1a4ffd5d445c070ee17bfb9
 - SHA512 チェックサム:
c366ba3f8740c4fabef1bcdde959710e04cf7b68fdafd44e8ebd085588e9527e1dac6f301125ad221f2ff94ec285d2dab5985080a2eff71341d60e1fd096917c
- ステップ 7** 解凍して確認したアップグレード ファイルをデフォルト リポジトリにコピーします。

```
admin# copy source disk:/defaultRepo
```

ここで、

- `source` は、アップグレード ファイルの URL、パス、およびファイル名 (例: `FTP://<YourFTPServer>/PI-Upgrade-3.0.0.0.78.tar.gz`) です。
- `disk` は、ディスクとローカル `defaultRepo` へのパスです。

ステップ 8 `ncs stop` コマンドを入力して、Prime Infrastructure サーバを停止します。

ステップ 9 アプリケーション アップグレードを実行します。

```
admin# application upgrade PI-Upgrade-3.0.0.0.78.tar.gz defaultRepo
```

この手順は、アプリケーション データベースのサイズによっては、完了するまでに 40 分以上かかる場合があります。

ステップ 10 アップグレード完了後:

- 管理コンソールで `ncs status` コマンドを入力して、アプリケーションが動作していることを確認します。
- ユーザに対して、アップグレードされた Prime Infrastructure サーバに接続を試行する前に、Prime Infrastructure の古いバージョンにアクセスしたすべてのクライアント マシンのブラウザでキャッシュをクリアするように指示します。
- アップグレードの前に外部 AAA (RADIUS または TACACS+) を使用していた場合は、『[Cisco Prime Infrastructure 3.0 管理者ガイド](#)』の「[Renewing AAA Settings](#)」を参照してください。
- Prime Infrastructure を使用して Cisco Wireless LAN Controllers を管理している場合は、『[WLC 設定の再同期](#)』を参照してください。
- 『[Cisco Prime Infrastructure 3.0 ユーザ ガイド](#)』の「[Synchronizing Devices](#)」の説明に従って、デバイスを同期します。

VMware vSphere Client からの OVA の導入

OVA を導入する前に、システム要件をすべて満たしていることを確認します。「[システム要件について](#)」および「[インストール開始前の作業](#)」を確認します。

ステップ 1 VMware vSphere Client を起動し、ESXi ホストまたは vCenter サーバに接続します。

ステップ 2 [ファイル (File)] > [OVF テンプレートの導入 (Deploy OVF Template)] の順に選択します。

ステップ 3 [参照 (Browse)] をクリックし、ローカル マシン上の OVA ファイルを保存した場所にアクセスしてから、[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 4 OVF テンプレートの詳細ページで詳細を確認し、[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 5 [エンドユーザライセンス契約 (End User License Agreement)] ウィンドウで、[同意する (Accept)] をクリックしてから [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 6 [名前と場所 (Name and Location)] ウィンドウで、次の項目を指定します。

- [名前 (Name)] フィールドに、新しい仮想マシンの名前を入力します。
- [インベントリの場所 (Inventory Location)] 領域で、適切なフォルダを選択します (vSphere Client が ESXi ホストに直接接続されている場合、このオプションは表示されません)。

ステップ 7 [Next] をクリックします。

ステップ 8 [導入設定 (Deployment Configuration)] ウィンドウで、目的の設定 (Express、Standard、Professional など) を選択し、選択した設定に必要なリソースを確認します。



(注) 最適なパフォーマンスを得るために、CPU およびメモリ リソースの 100% を予約することを推奨します。

ステップ 9 [Next] をクリックします。

ステップ 10 [ホスト/クラスタ (Host/Cluster)] ウィンドウで、OVF テンプレートを展開するホストまたはクラスタを選択してから、[次へ (Next)] をクリックします (vSphere Client が ESXi ホストに直接接続されている場合、このオプションは表示されません)。

ステップ 11 [ストレージ (Storage)] ウィンドウで、「[システム要件について](#)」で説明されている必要な領域の要件を満たすデータストアを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。

- ステップ 12** [ディスクフォーマット (Disk Format)] ウィンドウで、[シックプロビジョン (レイジーゼロ) (Thick Provision Lazy Zeroed)] を選択して仮想マシンの仮想ディスクをプロビジョニングしてから、[次へ (Next)] をクリックします。仮想マシンに必要な空きディスク領域がない場合は、Prime Infrastructure で障害が発生するため、シンプロビジョンは選択しないでください。
- ステップ 13** [ネットワークマッピング (Network Mapping)] ウィンドウで、仮想マシンで使用するネットワークを選択してから、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 14** [完了の準備 (Ready to Complete)] ウィンドウで、設定を確認し、[導入後の電源オン (Power on After Deployment)] を選択してから、[完了 (Finish)] をクリックします。
- サーバのネットワーク速度および IOPS によっては、導入が完了するまでに数分かかることがあります。

サーバのインストール

Prime Infrastructure OVA の導入後に、Prime Infrastructure をインストールおよび起動するために仮想アプライアンスを設定する必要があります。

- ステップ 1** 仮想マシンの電源がまだオンになっていない場合、VMware vSphere Client で導入した仮想アプライアンスを右クリックし、[電源 (Power)] > [電源オン (Power On)] の順に選択します。
- ステップ 2** [コンソール (Console)] タブをクリックします。
- サーバのブート後に、ローカルホスト ログイン プロンプトが表示されます。
- ステップ 3** ローカルホスト ログイン プロンプトで、**setup** と入力します。
- ステップ 4** コンソールから次のパラメータの入力を求められます。
- [ホスト名 (hostname)]: 仮想アプライアンスのホスト名。
 - [IP アドレス (IP Address)]: 仮想アプライアンスの IP アドレス。
 - [IP デフォルト ネットマスク (IP default netmask)]: IP アドレスのデフォルト サブネット マスク。
 - [IP デフォルト ゲートウェイ (IP default gateway)]: デフォルト ゲートウェイの IP アドレス。
 - [デフォルト DNS ドメイン (Default DNS domain)]: デフォルトのドメイン名。
 - [プライマリ ネームサーバ (Primary nameserver)]: プライマリ ネーム サーバの IP アドレス。
 - [セカンダリ ネームサーバ (Secondary name servers)]: セカンダリ ネーム サーバの IP アドレス (存在する場合)。最大 3 台のセカンダリ ネーム サーバを追加できます。
 - [プライマリ NTP サーバ (Primary NTP server)]: ユーザが使用するプライマリ Network Time Protocol サーバの IP アドレスまたはホスト名。(time.nist.gov がデフォルトです)。
 - [セカンダリ NTP サーバ (Secondary NTP servers)]: プライマリが利用できないときに使用されるセカンダリ NTP サーバの IP アドレスまたはホスト名。
 - [システムタイムゾーン (System Time Zone)]: ユーザが使用する時間帯コード。『Cisco Prime Infrastructure 3.0 ユーザ ガイド』の「System Timezones」を参照してください。
 - [クロック時間 (Clock time)]: サーバの時間帯に基づいた時刻。
 - [ユーザ名 (Username)]: 最初の管理ユーザの名前(「admin」)。これは、コンソールまたは SSH を使用してサーバにログインするために使用する管理者アカウントです。デフォルトの admin を受け入れることができます。
 - [パスワード (Password)]: 管理ユーザ パスワードを入力し、確認します。



ヒント Prime Infrastructure パスワードは、安全な場所に保管してください。パスワードを忘れた場合は、『Cisco Prime Infrastructure 3.0 管理者ガイド』の「Recovering Administrator Passwords on Virtual Appliances」を参照してください。

- ステップ 5** これらの値の入力が完了すると、入力したネットワーク設定パラメータがインストール用アプリケーションによってテストされます。テストに成功すると、Prime Infrastructure のインストールが開始されます。

- ステップ 6** アプリケーションのインストールが完了すると、次のインストール後パラメータの入力を促されます。
- [ハイアベイラビリティロール選択 (High Availability Role Selection)]: インストールしたサーバをハイアベイラビリティ実装のフェールバックのセカンダリサーバとして使用する場合は、プロンプトで **yes** と入力します。ハイアベイラビリティの登録に使用する認証キーを入力するように促されます。プロンプトに対して **no** と入力した場合、サーバはプライマリサーバ(スタンドアロン)として動作し、インストールでは次のプロンプトが出されます。
 - [Web インターフェイスルートパスワード (Web Interface Root Password)]: デフォルトのルート管理者が使用するパスワードを入力して確認します。これは、Prime Infrastructure Web ユーザ インターフェイスにログインし、別のユーザ アカウントを設定するために使用するルート アカウントです。
- ステップ 7** インストールに進むには、[はい (Yes)] を選択します。ハイアベイラビリティ オプションを入力し直すには、[いいえ (No)] を選択します。
- ステップ 8** インストールが完了すると、アプライアンスがリブートし、ログイン プロンプトが表示されます。
- ステップ 9** ステップ 4 で指定した「admin」ユーザ名とパスワードを使用して仮想マシンにログインします。
- ステップ 10** `ncs status` コマンドを実行して(『Cisco Prime Infrastructure 3.0 管理者ガイド』の「Checking Prime Infrastructure Server Status」を参照)、プロセスが再開したことを確認します。次のプロセス ステータスが表示されるはずですが、
- すべてのプロセスが稼働しています。
-

4 インストール後の作業

Prime Infrastructure のインストールが完了したら、この項の手順に従ってください。

- 前のリリースの Prime Infrastructure からのデータの移行
- Prime Infrastructure ユーザ インターフェイスへのログイン
- Prime Infrastructure のスタートアップ

前のリリースの Prime Infrastructure からのデータの移行

Prime Infrastructure 2.2.x から新しくインストールした Prime Infrastructure 3.0 サーバにデータを復元するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** 古いホストと同じリモート バックアップ リポジトリを使用するよう、新しい Prime Infrastructure ホストを設定します。詳細については、『Cisco Prime Infrastructure 3.0 管理者ガイド』の「Using Remote Backup Repositories」を参照してください。
- ステップ 2** 『Cisco Prime Infrastructure 3.0 管理者ガイド』の「Restoring From Application Backups」で説明されているように、リモート リポジトリ上のアプリケーション バックアップを新しいホストに復元します。
- ステップ 3** プロセスが完了したら、次の作業を行います。
- ユーザに対して、アップグレードされた Prime Infrastructure サーバに接続を試行する前に、Prime Infrastructure の古いバージョンにアクセスしたすべてのクライアント マシンのブラウザでキャッシュをクリアするように指示します。
 - Prime Infrastructure を使用して Cisco Wireless LAN Controllers を管理している場合は、『WLC 設定の再同期』を参照してください。
 - 『Cisco Prime Infrastructure 3.0 ユーザ ガイド』の「Synchronizing Devices」の説明に従って、デバイスを同期します。
- ステップ 4** 新しい Prime Infrastructure 3.0 サーバが動作可能になったら、以前のサーバを停止します。
-

移行後の保証データ

新しい Prime Infrastructure 3.0 仮想マシンまたはハードウェア アプライアンスに Prime Infrastructure 2.2.x を復元すると、Assurance ライセンスが自動的に新しいサーバに適用されます。

Prime Infrastructure 3.0 にデータを移動する際に、次の保証データは移行されません。

- Raw NetFlow 情報
- カスタム NetFlow レポート
- パケット キャプチャ ファイル
- 処理された非集約データ (PFR データおよび URL など)

どのバージョンの Prime Infrastructure からデータをバックアップして復元したかによっては、集約データも移行される場合があります。

- Prime Infrastructure 2.2.x から 3.0 に復元した場合: 5 分、1 時間、1 日の集約データが移行されます。
- Prime Infrastructure 3.0 から 3.0 に復元した場合: 5 分、1 時間、1 日の集約データが移行されます。

WLC 設定の再同期

前のバージョンのバックアップをバージョン 2.2.x の Prime Infrastructure に復元すると、Cisco Wireless LAN Controller 設定のサーバのレコードが、これらのデバイスに保管されている設定と同期していない状態になる場合があります。続ける前に、次の手順でこれらを再同期します。

ステップ 1 Prime Infrastructure にログインします。

ステップ 2 [インベントリ (Inventory)] > [ネットワークデバイス (Network Devices)] > [ワイヤレスコントローラ (Wireless Controller)] の順に選択します。Prime Infrastructure は、あらゆる Cisco WLC を含む、管理対象のすべてのコントローラの一覧を表示します。

ステップ 3 デバイスを選択し、[同期 (Sync)] をクリックします。

ステップ 4 他のすべての WLC に対してステップ 2 と 3 を繰り返します。

Prime Infrastructure ユーザ インターフェイスへのログイン

署名付き証明書を使用してクライアントと Prime Infrastructure サーバ間のセキュアな接続を保証することを強くお勧めします。署名付き証明書の作成方法については、『[Cisco Prime Infrastructure 3.0 管理者ガイド](#)』の「[Obtaining and Importing CA-Signed Certificates](#)」を参照してください。

Web ブラウザを介して Prime Infrastructure ユーザ インターフェイスにログインする手順は、次のとおりです。

ステップ 1 Prime Infrastructure をインストールし、起動したのとは別のコンピュータ上で、いずれかのサポート ブラウザ（「[システム要件について](#)」を参照）を起動します。

ステップ 2 ブラウザのアドレス行に、`https://ipaddress` と入力します。ここで、`ipaddress` は、Prime Infrastructure をインストールしたサーバの IP アドレスです。Prime Infrastructure ユーザ インターフェイスに [ログイン (Login)] ウィンドウが表示されます。

初めて Prime Infrastructure にアクセスしたとき、一部のブラウザでは、サイトが信頼できないという警告が表示されます。この場合は、指示に従ってセキュリティ例外を追加し、Prime Infrastructure サーバから自己署名証明書をダウンロードします。この手順の完了後に、ブラウザは将来のすべてのログイン試行で Prime Infrastructure を信頼できるサイトとして受け入れます。

ステップ 3 「[サーバのインストール](#)」で指定した管理者のユーザ名とパスワードを `root` と入力します。

ステップ 4 [ログイン(Login)] をクリックして Prime Infrastructure にログインします。ユーザ インターフェイスは、この時点でアクティブになり、使用可能になります。ホームページが表示されます。

ライセンスの問題が発生した場合は、アラート ボックスにメッセージが表示されます。評価ライセンスがある場合は、ライセンスの有効期限までの日数が表示されます。また、期限切れになったライセンスに対するアラートも表示されます。これらの問題に対処するために、[管理(Administration)] > [ライセンス(Licenses)] ページに直接移動するオプションがあります。

ステップ 5 システムのセキュリティを確保するには、[管理(Administration)] > [ユーザ、ロール、およびAAA (Users, Roles & AAA)] > [パスワードの変更(Change Password)] を選択して、root 管理者のパスワードを変更します。

ユーザ インターフェイスを終了するには、ブラウザのページを閉じるか、そのページの右上隅の [ログアウト(Logout)] をクリックします。Prime Infrastructure ユーザ インターフェイス セッションを終了しても、サーバ上では Prime Infrastructure はシャットダウンされません。

Prime Infrastructure のユーザ インターフェイス セッション中にシステム管理者が Prime Infrastructure サーバを停止すると、セッションが終了して、ブラウザに「The page cannot be displayed.」というメッセージが表示されます。サーバが再起動したときに、セッションは Prime Infrastructure に再び関連付けられません。新しい Prime Infrastructure セッションを開始する必要があります。

Prime Infrastructure のスタートアップ

Prime Infrastructure をインストールした後、ネットワークの管理を開始するために、追加の作業を実行する必要があります。管理者の場合は、『[Cisco Prime Infrastructure 3.0 管理者ガイド](#)』の「Administrator Setup Tasks」で次の項を参照してください。

- [Configuring Data Sources for Prime Infrastructure with Assurance](#) (NetFlow およびパフォーマンス エージェントの有効化を含む)
- [Managing Disk Space Issues](#) (Prime Infrastructure サーバでの場合)
- [Renewing AAA Settings](#)
- [Prime Infrastructure Software Updates](#)

シスコのプラグアンドプレイアプリケーションのインストールの詳細については、『[Cisco Plug and Play Application Solutions Guide](#)』を参照してください。

『[Cisco Prime Infrastructure 3.0 ユーザガイド](#)』の「Getting Started」の章にリストされているタスクを完了する必要があります。これらのタスクの完了後に、ネットワークのモニタと設定を開始できます。

5 参考資料

次の項で、Prime Infrastructure およびそのサポート オプションについて参考になる情報を提供します。

- [Prime Infrastructure と Assurance で使用されるポート](#)
- [Prime Infrastructure 仮想アプライアンスの削除](#)
- [ナビゲーションおよびマニュアルの参照先](#)
- [関連資料](#)
- [マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート](#)

Prime Infrastructure と Assurance で使用されるポート

表 6 に、Prime Infrastructure と Assurance で使用されるポートの一覧を示します。これらのサービスを使用する場合は、次のポートがファイアウォールで開かれている必要があります。

表 6 Prime Infrastructure と Assurance で使用されるポート

ポート	プロトコル	方向	使用方法
7	TCP/UDP	サーバからエンド ポイントへ	エンド ポイントは ICMP によって検出
20、21	TCP	双方向サーバ/デバイス	デバイス間でのファイルの FTP 転送
		サーバから Cisco.com へ	Cisco.com からのファイルの FTP ダウンロード
22	TCP	サーバからエンド ポイントへ	トラブルシューティング プロセス時にエンドポイントへの SSH 接続を開始
		クライアントからサーバへ	Prime Infrastructure サーバに接続
23	TCP	サーバからデバイスへ	デバイスとの Telnet 通信
25	TCP	サーバから SMTP サーバへ	SMTP 電子メールのルーティング
49	TCP/UDP	サーバから TACACS サーバへ	TACACS を使用してユーザを認証
53	TCP/UDP	サーバから DNS サーバへ	DNS
69	UDP	デバイスからサーバへ	TFTP
161	UDP	サーバからデバイスへ	SNMP ポーリング
162	TCP/UDP	エンド ポイントからサーバへ	SNMP トラップ レシーバ ポート
443	TCP	クライアントからサーバへ	HTTPS を介した Prime Infrastructure へのブラウザ アクセス(デフォルトでは有効)。このポートは、Prime Infrastructure サーバと cisco.com との間でのソフトウェア更新の確認にも使用されます。
514	UDP	デバイスからサーバへ	Syslog サーバ
1099	TCP/UDP	AAA サーバからサーバへ	RMI レジストリ
1522	TCP/UDP	プライマリ サーバからセカンダリ サーバ、セカンダリ サーバからプライマリ サーバ	プライマリおよびセカンダリの Prime Infrastructure 間の高可用性 データベース接続を設定する
1645	UDP	サーバから RAS へ	RADIUS リモート アクセス サーバで Prime Infrastructure ユーザを認証
1646		RAS からサーバ	
1812		サーバから RAS へ	
1813		RAS からサーバ	
4444	TCP	AAA サーバからサーバへ	RMI サーバ
8082	TCP	クライアントからサーバへ	Health Monitor Web インターフェイス、Apache/Tomcat JSP エンジン
8087	TCP	クライアントからサーバへ	セカンダリ サーバのソフトウェア更新ページ
9991 ¹	UDP	デバイスからサーバへ	NetFlow データ レシーバ
10022 ~ 10041	TCP	デバイスからサーバへ	パッシブ FTP ファイル転送に使用するポート範囲(コントローラ バックアップ、デバイス設定、レポート検索など)

表 6 Prime Infrastructure と Assurance で使用されるポート (続き)

ポート	プロトコル	方向	使用方法
11011 ¹	TCP	エンド ポイントからサーバへ	プラグ アンド プレイ ゲートウェイのプレーン テキスト ディスパッチャ ポート
11012			プラグ アンド プレイ ゲートウェイの SSL ディスパッチャ ポート
11013			プレーン テキスト プラグ アンド プレイ ポート
11014			プラグ アンド プレイ ゲートウェイの SSL ポート
61617 ²	TCP	サーバからエンド ポイントへ	Java Message Service 接続用の SSL ポート

1. プラグ アンド プレイ ゲートウェイを Prime Infrastructure サーバと統合する場合に使用します。
2. Prime Infrastructure プラグ アンド プレイ ゲートウェイでのみ使用されます。

Prime Infrastructure 仮想アプライアンスの削除

次の方法を使用した Prime Infrastructure の削除では、サーバ設定およびローカル バックアップなどのサーバ上のすべてのデータが削除されます。リモート バックアップがない場合、データを復元できなくなくなります。他の削除方法については、『Cisco Prime Infrastructure 3.0 管理者ガイド』の「Removing Prime Infrastructure」を参照してください。

- ステップ 1** VMware vSphere クライアントで、Prime Infrastructure 仮想アプライアンスを右クリックします。
- ステップ 2** 仮想アプライアンスの電源を切ります。
- ステップ 3** [ディスクから削除 (Delete from Disk)] をクリックして、Prime Infrastructure 仮想アプライアンスを削除します。

ナビゲーションおよびマニュアルの参照先

ここでは、Prime Infrastructure の機能にアクセスするためのナビゲーションパスの情報と、『Cisco Prime Infrastructure 3.0 ユーザガイド』でそれらの機能を扱っている項の詳細を示します。

表 7 ナビゲーションおよびマニュアルの参照先

作業	Cisco Prime Infrastructure 内のナビゲーション	『Cisco Prime Infrastructure User Guide』内の項
ライセンスの追加	[管理 (Administration)] > [ライセンスとソフトウェアアップデート (Licenses and Software Updates)] > [ライセンス (Licenses)]	使用する前に
ユーザの管理	[管理 (Administration)] > [ユーザ (Users)] > [ユーザ、ロール、およびAAA (Users, Roles & AAA)]	ユーザ アクセスの制御
ネットワークの検出	[インベントリ (Inventory)] > [デバイス管理 (Device Management)] > [検出 (Discovery)]	使用する前に
仮想ドメインのセットアップ	[管理 (Administration)] > [ユーザ (Users)] > [仮想ドメイン (Virtual Domains)]	使用する前に
モニタリング ダッシュボードの使用	[ダッシュボード (Dashboard)] > [概要 (Overview)] > [一般 (General)]	ネットワークの運用

表7 ナビゲーションおよびマニュアルの参照先(続き)

作業	Cisco Prime Infrastructure 内のナビゲーション	『Cisco Prime Infrastructure User Guide』内の項
テンプレートを使用した設定とモニタリング	[設定 (Configuration)] > [テンプレート (Templates)] > [機能およびテクノロジー (Features & Technologies)] または [モニタ (Monitor)] > [モニタリングツール (Monitoring Tools)] > [モニタリングポリシー (Monitoring Policies)]	ネットワークの設計
アラームの表示	[モニタ (Monitor)] > [モニタリングツール (Monitoring Tools)] > [アラームおよびイベント (Alarms and Events)]	アラームのモニタリング
デバイス設定のメンテナンス	[インベントリ (Inventory)] > [デバイス管理 (Device Management)] > [設定アーカイブ (Configuration Archive)]	デバイス コンフィギュレーション インベントリの保守
Prime Infrastructure に追加されたアクセス スイッチの設定	[設定 (Configuration)] > [プラグアンドプレイ (Plug and Play)] > [初期デバイス設定 (Initial Device Setup)]	デバイスのセットアップと設定のヘルプの利用
ネットワークに今後追加されるデバイスの事前設定	[設定 (Configuration)] > [プラグアンドプレイ設定 (Plug and Play Setup)] > [プロファイル (Profiles)]	デバイスのセットアップと設定のヘルプの利用

関連資料

「Cisco Prime Infrastructure 3.0 ドキュメントの概要」に、Prime Infrastructure で利用できるマニュアルの一覧を示します。



(注) マニュアルの発行後に、マニュアルをアップデートすることがあります。マニュアルのアップデートについては、Cisco.com で確認してください。

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報について、次の URL で、毎月更新される『What's New in Cisco Product Documentation』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

『What's New in Cisco Product Documentation』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダー アプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。

Cisco and the Cisco Logo are trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the U.S. and other countries. A listing of Cisco's trademarks can be found at www.cisco.com/go/trademarks. Third party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

このマニュアルで使用している IP アドレスは、実際のアドレスを示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、および図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスが使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

© 2012-2015 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.